この出入口のこと知ってる？

阪神高速の出入口再発見！

なかのしま「中之島・中之島西」

11号池田線［中之島入口］・3号神戸線［中之島西出入口］

電気科学館に導入された東洋初のプラネタリウム、カールツアイスⅡ型投影機。電気科学館時代の52年間活躍し、現在は科学館地下1階のツアイス広場に展示されている。1989年、現在の科学館の開館と同時に新たなプラネタリウム投影機が導入され、現在使用されている投影機は、カールツアイスⅡ型から数えて4台目。

大阪で誕生した、日本初の科学館「電気科学館」戦前に、テレビ電話など最先端の科学を展示

日本初の科学館は大阪発祥だということをご存じでしょうか。中之島にある「大阪市立科学館」の前身である「大阪市立電気科学館」がそれで、四ツ橋にありました。大阪市立電気科学館時代から現在までの歩みを大阪市立科学館・主任学芸員の嘉数次人（かずつぐと）さんに、聞きました。

最新の科学に特化した電気科学館

大阪市立電気科学館（以下、電気科学館）は、1937（昭和12）年に大阪市電気局が開設した施設です。大阪市電気局が電気配電事業に本格的に参入した当時は、複数の企業が電気配電のシェアを争っていたうえ、まだまだ電気供給の歴史が浅い時代です。そこで、多くの市民に「電気を使う生活はこんなに便利ですよ」とアピールすると同時に、電気知識の普及を目的として誕生しました。

電気科学館の2階から5階は「電気館」と呼ばれ、電気の原理やその応用を紹介する展示場でした。最先端の技術を応用した電気製品がずらりと並び、体験を通じて電気の原理や現象をわかりやすく学ぶ「体験型展示」が特徴です。「最先端の科学」に特化した展示スタイルは当時、他になかったことから、日本初の科学館といわれています。

開館時からあった体験型展示の一例が、テレビ電話です。有線で結んだテレビ装置のある2部屋が並び、来館者はもうひと部屋のカメラで撮られた相手の顔を、ブラウン管のテレビ画面で見ながら、電話の受話器を持って会話をすることが

エッセイ 夏 季節の言葉

鰮（いわし）拾ふて

大漁の鰮拾ふて戻りけり　正岡子規

最近、大阪南部の和泉地方にある漁港を訪ねて、漁村の暮らしや方言について調べています。明治時代に太陽暦が導入されましたが、四季の移り変わりは、やはり旧暦の方が実態に近く、漁村の行事には今でもその影響が色濃く残っています。

この地域では、昔は旧暦の五月一五日に網の張り替えが終わると、いよいよ夏の漁が本格的に始まるとされていました。大阪湾では、いわし（イワシ）を中心に、しゃこ、あしあか（クマエビ）、あこう（キジハタ）、あじ（アジ）など、さまざまな魚介類が獲れます。中でもイワシの漁獲量は特に多く、年によっては水産物の八〇％以上を占めることもありました。

ここでは、巾着網（きんちゃくあみ）という漁法でイワシやその稚魚のシラスを獲っています。近年、大阪湾のシラスのほとんどはカタクチイワシの稚魚で、春から夏にかけてが漁の最盛期です。

戦後、大阪湾は埋め立てや水質汚染で漁獲量が大きく減りましたが、それでも栄養が豊富な内湾であり、シラスの成長に適した環境が残っています。そして大阪府内で獲れたすべてのシラスは、岸和田漁港にある大阪府鰮巾着網漁業協同組合に水揚げされています。

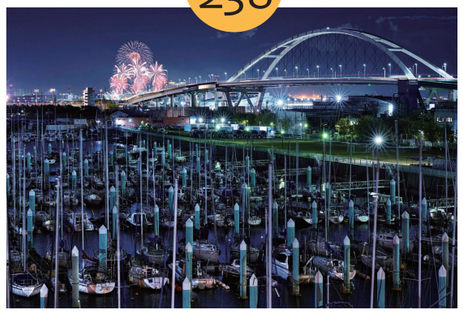
かつて和泉地方で獲れた魚介類は、岸和田より南の地域で消費されてしまい、大阪市や府内の各地にはあまり出回っていませんでした。今でも大阪府民の食卓に上る魚の多くは、瀬戸内や北陸などから運ばれてきたものが中心で、「大阪もん」に出会うことはごくわずかです。

イワシを拾うことはないかもしれませんが、大阪湾を南に下って行けば、新鮮な地魚に出会えること間違いなしです。

和泉地方には、春木、岸和田、佐野、田尻、岡田、樽井、西鳥取、淡輪（たんのわ）、深日（ふけ）などの漁港があります。

中井精一　なかいせいいち（同志社女子大学日本語日本文学科教授）
博士（文学）（大阪大学）専門は日本語学・方言学　主な著書に『地図で読み解く関西のことば』（昭和堂）『関西弁事典』（ひつじ書房）、『大阪のことば地図』（和泉書院）などがある。

関西とともに―［阪神ハイウェイ］
HANSHIN HIGHWAY
2025 SUMMER vol. 238



～阪神高速のある風景～
第4回 阪神高速フォトコンテスト優秀賞作品

CONTENTS

エッセイ●季節の言葉
鰮（いわし）拾ふて　中井精一

1 この出入口のこと知ってる？●阪神高速の出入口再発見！
なかのしま［中之島・中之島西］
11号池田線「中之島入口」・3号神戸線「中之島西出入口」
大阪で誕生した、日本初の科学館「電気科学館」
戦前に、テレビ電話など最先端の科学を展示

4 関西の名工
三木章稔さん（花火師）
職人の勘と熟練の技が
夜空の芸術品「花火」を生み出す

6 教えてセンセイ
堤 邦彦さん（京都精華大学名誉教授）
怪談が嘘か本当かは問題ではありません
文芸ジャンルとして
心情や背景を感じてほしい

8 阪神高速の取り組み
［2市1町 おトクなクーポンde グルメ旅］始まります！
泉大津PA発、
周遊企画で地域の活性化を

10 ちょっと行ってみたい関西うまいもん
和束茶 ●京都府相楽郡和束町

12 Hanshin Highway TIMES
「コージくんともぐる！阪神高速」
「お客さま満足アッププラン2025」って知ってる？
第5回 阪神高速 未来（あす）へのチャレンジプロジェクト

表紙イラスト〈大阪市立科学館〉
ヤマサキタツヤ：大阪生まれ大阪育ちのイラストレーター。誌面やWebなど各媒体で活動。
「来た見た食うた 大台南見聞録」（書肆侃侃房）など主に台湾に関する書籍を出版。

できました。テレビ電話は開発段階の試作品で顔の輪郭がわかる程度の画像だったようですが、それでもテレビ電話を使用するなんて一般的にはまずできない体験です。レコード録音ができるスタジオがあったのもユニークです。自分の音声などを数分間、録音してオリジナルのレコードをつくり、持ち帰って自宅の蓄音機で聞くことができました。

「天象館」と名づけられた6階には、東洋初、すなわち日本初のプラネタリウムがありました。直径18メートルのドームに、地球上のどの地点の過去・現在・未来の星空でも再現できる、最新式のドイツ・カールツァイス社製のⅡ型投影機を設置。当時、プラネタリウムなどだれも目にしたことがありませんから、プラネタリウムそのものを紹介するパンフレットも作成されています。

開館当時、宝塚に住む小学生だった手塚治虫氏はプログラムが変わるごとにプラネタリウムに通っていたそうです。ここでプラネタリウムの原理を知った彼は、星図を見ながら石鹸箱に穴をあけてそのなかに裸電球を入れ、暗くした部屋で星空の解説を家族にしたとか。織田作之助氏もプラネタリウムに魅了されたひとりです。小説「わが町」には、電気科学館のプラネタリウムが登場します。

1階は「市電の店」と呼ばれ、大阪市電気局のサービス窓口があり、家電製品の販売も行っていました。

1945(昭和20)年3月の大阪大空襲では建物の一部が焼失したものの、プラネタリウムは無事。翌年2月にはプラネタリウムのみ再開し、焼け野原になり娯楽もなくなった大阪で、星空の投影に続いてアメリカ映画の上映も行っていました。1948(昭和23)年には全館再開。その後、市民だけでなく修学旅行生らの見学も増えていきます。

1960~1970年代の電気科学館で、子供にも大人にも人気だったのがロボット「スター君」と「ライト君」です。大人の背丈よりも若干大きなロボットで、ワイヤードのリモコンで歩いたり、しゃべったり、じゃんけんするなどの機能がありました。「透明人間の部屋」という展示も人気でした。「おはよう」という声とともにカーテンが自動でさっと開き、「顔を洗おう」という声で水道の水が自動でジャーと流れ出すなど、電気回路のオン・オフの切り替えを行うリレーの原理を使って、あたかも透明人間が住んでいる部屋のようにおもしろおかしく紹介した展示でした。

科学館は昨年、全面リニューアル

1989(平成元)年、四ツ橋の電気科学館は閉鎖し、同年、中之島に「大阪市立科学館」(以下、科学館)がオープンします。電気科学館時代は物理学のひとつの分野である電気のみを扱っていましたが、科学館では化学、天文学、物理学全般と科学の対象を大きく広げて展示するようになりました。科学実験のライブパフォーマンス「サイエンスショー」もこのとき始まっています。

館内の部分展示の改装は1989年以降、何度か行い、新展示の導入も続けてきましたが、昨年2024年、展示場の全フロアのリニューアルを実施しました。科学を伝える実物、本物の資料、生の現象を目の当たりにできる体験型展示がよりバージョンアップ。4階には、当館ならではの「大阪と科学」のエリアも充実させ、電気科学館時代からあった人気の展示も再現しています。

たとえば、ボタンを押すとたまごがくるくる回転する「廻転玉子」という展示です。なぜ回転するのか?という解説は展示の横に記載があります。それを見ても「三相交流?そんなの学校で習ったっけ?」と大人は忘れていますが(笑)、よく読んでもらうと理解してもらえるはずです。高校生なら「教科書で勉強した原理はこういうことか!」と体験で確かめることができます。小さなお子さんは「玉子が回転しておもしろいな」と現象を楽しんでもらうだけでいいんです。

ただ、科学館というと子供向けの施設と思われがちですが、実は大人向けにつくっているんですよ。体験や実験を通じて「なるほど」と理解することは科学の醍醐味です。Aを理解しBの知識と組み合わさると、Cという知識を理解することもできます。館内にはいろいろな科学が散りばめられていますから、おすすめはじっくりご覧いただくこと。それぞれの方がそれぞれの楽しみ方でご覧いただけたらうれしいです。

大阪市立科学館
大阪市北区中之島4-2-1

「科学の探究」をテーマとした4階には、「大阪と科学」のエリアがあり、電気科学館時代からの人気展示「廻転玉子」のほか、つかもうとしてもつかめない「幻の花」、「手動発電機」などがある。

3階は「物質の探究」をテーマとしたフロア。迫力あるサイズの岩塩のほか、さまざまな鉱石の展示も。3階にはサイエンスショーの会場「サイエンスステージ」もある。

てこの原理を使った展示では、30キロのバーベルを小さい力で持ち上げられることが、実感できる。

「科学館の楽しみ方は無限大です」「私たち学芸員からの『知ってほしいメッセージ』は、展示に添えられた解説に込められています」と学芸員の嘉数次人さん。

写真提供:大阪市立科学館

専門スタッフによる生解説が名物のプラネタリウム。限りなく本物に近い星空を多彩なプログラムで楽しむことができる。

ヤノベケンジ《SHIP'S CAT(Muse)》2021年

写真下2点 © 大阪中之島美術館

★大阪中之島美術館

大阪と世界の近代・現代美術とデザインをテーマとするコレクションを中心に、洋画、日本画、版画、写真、彫刻など、多岐にわたる作品を所蔵。特に、佐伯祐三の名作、モディリアーニの裸婦像、具体美術協会のリーダー・吉原治良の作品など、国内外で高く評価されている作品が揃う。特徴的な黒い建物内には歩行者用の小径「パッサージュ」があり、美術館に興味がある人もない人も、無料で気軽に抜けられる「開かれたアートの拠点」でもある。

★大阪市立東洋陶磁美術館

世界第一級の質と量を誇る東洋陶磁に特化した美術館。世界的に有名な「安宅コレクション」を住友グループから寄贈されたことを記念して大阪市が設立し、1982(昭和57)年に開館。中国や韓国、日本など東洋陶磁の所蔵品数は、2件の国宝と13件の重要文化財を含む、約5700件。魅力ある内容の展示をこころゆくまで鑑賞できるよう、自然採光展示ケース、回転式展示台、免震展示台など展示設備にもさまざまな工夫がこらされている。

★こども本の森 中之島

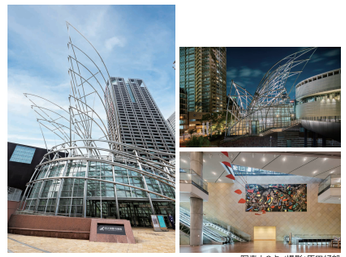
こどもたちに多様な本を手にとってもらい、無限の創造力や好奇心を育んでほしい、と大阪出身の建築家・安藤忠雄氏の提案から誕生した文化施設。1~3階のフロアの壁すべてが、約2万冊の絵本や児童文学を所蔵する巨大な本棚になっており、まさに「本の森」にいるような感覚に。本の貸し出しは行っていないが、施設が立地する中之島公園内に限って一人一冊持ち出しもOK。

© いとう写真

写真上・左 © 大阪市中央公会堂

★大阪市中央公会堂

株式仲買人だった大阪市民・岩本栄之助の寄付により、1918(大正7)年に完成。以来、ネオ・ルネッサンス様式を基調とした優美な赤レンガ造りのこの建物では、一流アーティストによるオペラやコンサートのほか、アインシュタインやヘレン・ケラーなど各界の著名人の講演会などが数多く開催されてきた。老朽化により1999(平成11)年に保存・再生工事に着手、2002(平成14)年9月に完成。同年12月には、公会堂建築物として西日本で初めて、国の重要文化財に指定された。



写真上2点/撮影:原田好郎

★国立国際美術館

世界でも珍しい「完全地下型」の美術館。1945年以降の国内外の現代美術を中心に、国内最大規模を誇る約8,000点のコレクションを有する。ユニークな外観は、竹の生命力と現代美術の発展・成長をイメージしてデザインされており、設計はアルゼンチン生まれのシーザー・ペリ氏による。コレクション展では、現代美術を語るうえで重要な作家や作品を、随時、視点を変えて魅力あるテーマで紹介している。

右・下右写真/©中之島GATEサウスピア

★中之島GATEサウスピア

安治川左岸に、海船と川船の乗換ターミナルとなる公共船着場「中之島GATEサウスピア」が、4月にオープン。レストラン施設が併設され、屋上ではバーベキューも楽しめる。また、レストラン内にはかつてこの地にあった外国人居留地の様子を表したジオラマが展示されている。

★近代製紙業発祥の地

1875(明治8)年、熊本藩蔵屋敷の跡地だったこの地に建てられた製紙工場で、日本初の洋紙がつくられた。きっかけは、大阪の商人・平野屋五兵衛がイギリスから洋紙をつくる機械を購入したこと。高知出身の政治家・後藤象二郎と大阪の商人がともにつくった「蓬莱社」が、その機械を譲り受け、製紙工場を建てて日本初の洋紙をつくった。その後、会社の名前は何度か変わりながら、第二次世界大戦頃までこの地に工場があった。